# 四月五雲会延期公演

八月十五日（土）
午後十二時始

開場　十一時
於　宝生能楽堂

## 12:00

### 右近

シテ　田崎甫　ツレ　朝倉大輔　〃　上野能寛

ワキ　宝生欣哉
ワキツレ　則久英志　〃　野口能弘
間　山本則孝

大鼓　大倉慶乃助　小鼓　船戸昭弘　太鼓　金春惣右衛門　笛　小野寺竜一

地謡　佐野玄宜　高橋憲正　野月聡　東川尚史　川瀬隆士

後見　宝生和英

### 演目の解説

**能「右近」（うこん）**

鹿島の神職の者が、北野の右近の馬場に花見車に乗って来ると、花見上を騰めやって来ます。上騰と神職は騰達にも出会いますが、恋しくは「見ずもあるなら人の言葉平安の歌のけぶり絶えぬ暮れにさん」という業を交わしまの景色を催し、名所を案内したます。花を廻る興を月夜神楽を上騰は桜葉の物語を消失せまを待ちたまえと神と名乗り、天満宮の末社、桜葉の夜、神職の本体の夢花の陰に野の神が現れ、優雅な舞を舞い、天に帰って行きます。

**狂言「附子」（ぶす）**

主人が外出するので、太郎冠者と次郎冠者に附子を預け、猛毒の為気を付けるようにと言いつけた。は じめは怯えなが ら附子を守っつけた。次第に附子を見ていた二人だが、附子に近づき…。

## 13:20

### 附子

山本則重

若松隆
山本則秀

〈休憩十五分〉

## 14:00

### 兼平

シテ　澤田宏司

ワキ　大日方寛
ワキツレ　舘田善博　〃　御厨誠吾
間　山本泰太郎

大鼓　柿原光博　小鼓　田邊恭資　笛　成田寛人

地謡　金野泰大　亀井雄二　小倉伸二郎　辰巳大二郎　金井賢郎

後見　大友順

**能「兼平」（かねひら）**

木曽から来た僧が琵琶湖の矢橋で渡る為に船を待つていると、渡しの船頭が柴を積んだ船が来かかり、乗せようと声を掛けます。始めは拒んだ船頭でしたが、思い直して乗せることにしたのです。僧は船に乗せて琵琶湖を渡る。船頭は僧を説得して乗せる。僧の求めに応じて琵琶湖の名所旧跡を教えて、粟津に着くと同時に、人は粟津で死んだ、今井四郎兼平の霊の船頭の老いは消えて失せまします。実は、義仲の夜再び現れ、義仲の死を語り、弔いを頼んで消え失せます。

**能「草薙」（くさなぎ）**

恵心僧都が熱田神宮に参籠して七日の間、最勝王経を講じまいるところに、花を売る男女が通って来まいます。僧都が言葉をかけると、二人は夫婦で、男は熱田の神の剣を守ると、神、女は齢を延べる仙女であると明かし、七日の結願の夜に再び現れ、ようと言って消え失せます。武尊の前に現れた、結願の日熱田僧都の源の太夫の娘、弟橘姫の霊でした。日本武尊は、夷退治の有様と草薙の神剣の謂れを語り、最勝王経の功徳を讃えて去つて行きます。

## 15:35

### 草薙

シテ　今井基　ツレ　辰巳和磨

ワキ　野口琢弘
間　山本凜太郎

大鼓　柿原孝則　小鼓　清水和音　太鼓　澤田晃良　笛　熊本俊太郎

地謡　金森良充　小倉健太郎　山内崇生　小林晋也　金森隆晋

後見　藤井秋雅

〈休憩十五分〉

終演予定　十六時三十五分頃

## 次回予告

二〇二〇年九月十九日（土）正午始

呉服　和久荘太郎

藤栄　小倉伸二郎

殺生石　小林晋也